



令和3年9月9日

映像を活用した口頭指導「Live 119」の状況

東京消防庁では、令和2年9月9日より特別区災害救急情報センターにおいて、映像を活用した口頭指導「Live 119」を導入しています。

導入から1年が経ちましたので、活用実績や活用事例をご紹介しますとともに、導入効果と今後の展望についてお知らせします。

1 活用実績（令和2年9月9日から令和3年8月31日）

口頭指導実施件数：5,063件

うちLive 119活用件数：157件

※特別区災害救急情報センターの集計

2 代表的な活用事例

(1) 80代の女性が食事中に苦しがり、意識朦朧となった事例

概要：指令室員が、女性の家族のスマートフォン番号を聴取し、Live 119へ接続、映像により状況を確認後、応急手当方法の動画を送信しました。これにより、救急隊が女性宅に到着する頃には、容態が改善しました。

(2) 1才の女児が入浴中に溺れ、意識を失った事例

概要：指令室員が、女児の家族のスマートフォン番号を聴取し、Live 119へ接続、映像により普段通りの呼吸をしていないことを確認したため、心肺蘇生法の動画を送信し、ご家族が映像に従って応急手当をしたことにより、救急隊が女児のもとに到着する頃には、自発的に呼吸できる状態まで回復しました。

(3) 40代の女性が倒れ、意識不明に陥った事例

概要：通報者であるご家族が慌てていたため、指令室員が通報内容から、普段通りの呼吸をしていないことを確認し、応急手当方法の動画をLive 119で送信しました。動画を参考に効果的な応急手当を行うことができ、医療機関に到着後、心拍が回復しました。

(4) 40代の男性がホームセンターで倒れ、意識を失った事例

概要：通報時に、胸骨圧迫処置を実施しているとの情報により、Live 119へ接続、映像により確実な胸骨圧迫処置が実施されており、

AEDも装着されていることを確認しました。状況を確認後、胸骨圧迫処置の継続を説明して、心肺蘇生法の動画を送信しました。これにより、救急隊が到着する頃には、容態が改善しました。

3 導入の効果

- (1) 突然、家族が倒れて慌てていた通報者が、Live119により映像を介し、同じ状況を指令室員と共有することにより、落ち着きを取り戻し、応急手当を実施できました。
- (2) 通報者が行っている応急手当の映像を送信してもらうことで、より効果が上がるようにアドバイスすることができました。
- (3) Live119の動画送信機能により、応急手当方法の動画を見た通報者が、胸骨圧迫処置など適切な手当を指令室員の説明のとおり行うことができました。

4 今後の展望

Live119を活用することにより、応急手当の実施率と救命効果の向上に効果が期待できることから、特別区災害救急情報センターでは上記のような事例を題材に、活用のケースを広げられるように訓練を行っています。

また、各広報媒体への投稿や消防署での行事を通じて、より多くの方に、Live119を知ってもらうことで、スムーズな応急手当の実施につなげていきます。

本件は、「『未来の東京』戦略」を推進する事業です。

戦略8 安全・安心なまちづくり戦略

「火災や災害から命を守る体制強化プロジェクト」

「命をつなぐ救急救命プロジェクト」

問合せ先

（東京消防庁（代） 電話 3212-2111
広報課報道係 内線 2345～2349
総合指令室管理係 内線 3746）